

練習を始める前に

全10問 | 小さな練習から、まとまった作文へ

名前

日付

資料は、意見を支える手がかりです。ただし、数字があるだけで結論が正しくなるわけではありません。対象・時期・単位を読み、計算を確かめてから、根拠のある提案へつなげましょう。この教材の調査・数値はすべて学習用の架空資料です。

問1～4 基礎／問5～7 標準／問8～10 応用。自分で書いてから、解答解説の例と確認基準を読みましょう。作文の内容は一つに決まりません。

この教材の「字数」は、横書き原稿欄の使用マス数で数えます。本文だけの文字数とは異なります。題名・氏名は原稿欄の外に書きます。

1行20マス。段落の最初は1マス空けます。改行は次の行へ進み、前の行の余ったマスも数えます。最終段落の末尾より後の空きマスは数えません。

句読点・かぎ括弧は原則1マスです。ただし「。」と直後の閉じかぎ括弧は同じマスに書きます。句読点や閉じ括弧が行頭に来るときは、前の行の最後のマスに前の文字と一緒に入れます。

開き括弧が行末に来るときは、そのマスを空けて次の行から書きます。その空きマスも数えます。数字は原則として漢数字を使います。

以上はこの教材でそろえた練習用のルールです。学校・入試の原稿用紙や字数計算に別の指示がある場合は、その指示を優先します。

取り組み終わったら、できた問に印を付けましょう。

問1〔 〕 問2〔 〕 問3〔 〕 問4〔 〕 問5〔 〕

問6〔 〕 問7〔 〕 問8〔 〕 問9〔 〕 問10〔 〕

基礎の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

名前

日付

問1 単位と対象を押さえる

表を読み、①最も多い項目と人数、②この調査の対象を、一文ずつ書きなさい。

読みたい本の種類（架空調査）

種類	人数（人）
物語	12
科学	8
伝記	6
その他	4

三年一組30人全員が、最も読みたい種類を一つ選んだ。未回答なし。

条件

- 1 ①と②を分けて書く。
- 2 人数の単位を付ける。

確認 条件を満たし、読み手に伝わる表現になっているか。

基礎の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

問2 差と全体を計算する

①水曜日と月曜日の差、②三日間の合計、③この表から実際に利用した人数が分かるかを書きなさい。

放課後の図書室利用（架空記録）

曜日	延べ利用回数（回）
月曜日	18
火曜日	18
水曜日	26

一週間のうち連続する3日間。入室1回を1回と数え、同じ人の再入室も数えた。

条件

- 1 ①②には計算結果と単位を書く。
- 2 ③には判断の理由を添える。

確認 条件を満たし、読み手に伝わる表現になっているか。

基礎の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

問3 人数と割合を区別する

読書会への参加者数は同じです。各学級の参加率を求め、参加率が高い学級を理由とともに書きなさい。

希望者が参加する読書会（架空記録）

学級	全員数（人）	参加者数（人）
一組	20	10
二組	40	10

同じ日の同じ読書会への参加。全員数は各学級の在籍者数。

条件

- 1 両方の参加率を、式または計算の説明を添えて書く。
- 2 パーセントの単位を付ける。

確認 条件を満たし、読み手に伝わる表現になっているか。

基礎の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

問4 事実と推測を仕分ける

文Aと文Bを「事実」「推測」に分け、推測の文を断定を避けた表現に直しなさい。

考える材料

- A 五月は四月より貸出冊数が二十冊多い。
- B 開室時間を延ばしたので貸出冊数が増えた。

図書室の月別記録（架空記録）

月	貸出冊数（冊）	昼休みの開室時間（分／日）
四月	60	15
五月	80	25

同じ図書室の各月20開室日を集計。五月には新刊の紹介も行った。借りた実人数は未集計。

条件

- 1 AとBをそれぞれ分類する。
- 2 Bの書き直しには「可能性がある」など、推測と分かる表現を使う。

確認 条件を満たし、読み手に伝わる表現になっているか。

標準の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

名前

日付

問5 合計を超えた理由を読む

回答人数の合計が四十人を超える理由を説明し、「三十人が机の増設だけを希望している」と言えるか判断しなさい。

自習室に望む改善（架空調査）

改善案	選んだ人数（人）
机の増設	30
開室時間の延長	25
照明の改善	10

利用者40人に調査。一人が二つまで選択。全員が一つ以上回答した。

条件

- 1 表の回答方法に触れる。
- 2 「増設だけ」と言えるか、理由とともに書く。

確認 条件を満たし、読み手に伝わる表現になっているか。

標準の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

問6 答えられない問いを見抜く

「清掃当番を増やしたことが、ごみを減らした唯一の原因だ」と結論できるか。できない理由と、追加で確かめたいことを一つ書きなさい。

校庭のごみと利用状況（架空記録）

項目	第一週	第二週
清掃当番（人／日）	4	8
一週間に回収したごみ（kg）	5	3
校庭の延べ利用人数（人）	500	280
雨天日数（日）	0	3

各週とも月曜日から金曜日までの5日間。回収方法は同じ。利用人数は一日の利用者数を合計した延べ人数。

条件

- 1 結論できるかを最初に示す。
- 2 表の別の条件を一つ以上挙げる。
- 3 原因を検討するための追加情報を書く。

確認 条件を満たし、読み手に伝わる表現になっているか。

標準の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

問7 根拠と限界を備えたメモ

相談できる席を設ける案について、①根拠に使える事実、②まだ分からないこと、③次の一步を一つずつ書きなさい。

相談できる席を希望するか（架空調査）

回答	人数（人）
希望する	12
希望しない	5
どちらともいえない	3

ある火曜日に来館した生徒20人全員に、一人一回、一つの回答を求めた。来館しなかった生徒には聞いていない。

条件

- 1 ①②③に分け、各一文で書く。
- 2 事実には人数を入れる。
- 3 提案は資料の限界を補うものにする。

確認 条件を満たし、読み手に伝わる表現になっているか。

問8 人数の違いから小さく提案する

応用 | 使用マス数 160～200マス

名前

日付

図書委員会に向け、放課後の開室日をどう見直すか提案しなさい。表の事実と、判断するときの注意点を両方入れなさい。

放課後に図書室を利用したい曜日（架空調査）

曜日	希望人数（人）
月曜日	8
火曜日	4
水曜日	18

三年一組30人全員が最も利用したい曜日の一つ選択。現在の放課後開室は月曜日のみ。他学年の希望・実際の来館人数・担当者の都合は未調査。

条件

- 1 使用マス数は百六十～二百マス。二段落で書く。
- 2 第一段落に提案と、表の数値を二つ以上使った根拠を書く。
- 3 第二段落に資料の限界と、次に確かめることを書く。
- 4 常体で書く。数は漢数字で表す。

構成メモ

立場・読み取った事実

理由・具体例

結論・注意点

問8 人数の違いから小さく提案する 本文

使用マス数 160～200マス | 横書き 1マス9mm

本文を書く欄

																				20
																				40
																				60
																				80
																				100
																				120
																				140
																				160
																				180
																				200

数え方 段落頭・途中の改行で残る空きも数え、最後の文の後の空きは数えません。

確認 条件・根拠・段落を点検し、使用マス数を確かめたか。

読み返して直したいところ

直した理由

問9 変化と原因を分けて提案する

応用 | 使用マス数 160～200マス

名前

日付

給食委員会は、少なめに盛り付けて追加できる方式を続けるか検討しています。表から分かる変化を示し、原因の判断に注意しながら次の調べ方を提案しなさい。

盛り付け方式を変えた前後（架空記録）

項目	変更前の五日間	変更後の五日間
残食の一日平均（kg）	4	2
欠席者の一日平均（人）	2	6
主菜の種類	魚が三日・肉が二日	魚が一日・肉が四日

同じ40人の学級。変更後は少なめに盛り、希望者が追加する方式。残食の量り方は同じ。出席人数や献立はそろえていない。

条件

- 1 使用マス数は百六十～二百マス。二段落で書く。
- 2 第一段落に残食量の変化と、原因を断定できない理由を書く。
- 3 第二段落に、今後比べる条件と生徒への配慮を書く。
- 4 常体で書く。数は漢数字で表す。

構成メモ

立場・読み取った事実

理由・具体例

結論・注意点

問9 変化と原因を分けて提案する 本文

使用マス数 160～200マス | 横書き 1マス9mm

本文を書く欄

																				20
																				40
																				60
																				80
																				100
																				120
																				140
																				160
																				180
																				200

数え方 段落頭・途中の改行で残る空きも数え、最後の文の後の空きは数えません。

確認 条件・根拠・段落を点検し、使用マス数を確かめたか。

読み返して直したいところ

直した理由

問10 異なる集団の数字を比べる

応用 | 使用マス数 160～200マス

名前

日付

地域の読書会が、中学生向けの土曜企画を続けるか検討しています。二つの会場の回答を割合で比べ、調査の限界も踏まえた提案を書きなさい。

土曜企画を続けてほしいか（架空調査）

会場	当日の参加者・回答者（人）	継続希望（人）
中央会場	20	12
東会場	10	8

同じ土曜日、同じ内容の読書会に参加した中学生全員が、一人一回「希望する・希望しない・未定」から回答。不参加者への調査はなし。

条件

- 1 使用マス数は百六十～二百マス。二段落で書く。
- 2 第一段落に両会場の希望割合と、人数と割合の比較を書く。
- 3 第二段落に提案、調査対象の限界、追加で調べることを書く。
- 4 常体で書く。数は漢数字で表す。

構成メモ

立場・読み取った事実

理由・具体例

結論・注意点

問10 異なる集団の数字を比べる 本文

使用マス数 160～200マス | 横書き 1マス9mm

本文を書く欄

																				20
																				40
																				60
																				80
																				100
																				120
																				140
																				160
																				180
																				200

数え方 段落頭・途中の改行で残る空きも数え、最後の文の後の空きは数えません。

確認 条件・根拠・段落を点検し、使用マス数を確かめたか。

読み返して直したいところ

直した理由